

65 タバコの育苗ポット全量施肥技術の検討

福島県たばこ試験場・平成10～12年度試験成績概要

1 部門名 特用作物－タバコ－育苗・施肥法・作業技術 分類コード 06－01－06132900

2 担当者 野田正浩

3 要旨

タバコの育苗ポット内に、生育に必要とする窒素量を肥効調節型肥料を用いて全量施用し、ほ場への施肥作業の省略、局所施肥による施肥効率の向上、環境負荷軽減を目指して試験を行った。供試ポットは、25穴ビニポット及び生分解性エコパームポット(25穴相当)、供試肥料はLPSS-100、施肥量は窒素成分で1.8kg/a、1.4kg/a、1.0kg/aとした。LPSS施用区では追肥を行わなかった。

(1) 移植苗の生育は、慣行育苗が勝った。ポット施肥区は、施肥量が少ないほど生育が良い傾向であった。

(2) 移植適苗の割合は、25穴ビニポットとエコパームのポット施肥区で、N1.8kg/aがいずれも0%、N1.4kg/aが12%と16%、N1.0kg/aが48%と76%であった。25穴ビニポット・ポット施肥区の根鉢形成割合は、N1.0kg/aにおいても44%に留まったが、エコパームポットを使用することにより根鉢の問題は解消された。

(3) エコパームポット区の移植後の生育は、ポットの分解が遅れたため、慣行に比べ劣った。

(4) 以上の結果、ポット全量施肥技術は、肥料に窒素成分含有率の高いLPSS-100を、ポットに生分解性エコパームポットを供試することで、慣行には劣るものの移植可能な苗を得ることができた。ポット内施肥量は、移植苗の使用可能率の割合からN1.0kg/a以下が望ましいと考えられた。移植後の生育は、エコパームポットの分解速度と、肥料の溶出タイプを調整することにより、ポット全量施肥でも慣行と同等となることを明らかにした。